⑪情報を読み解く力

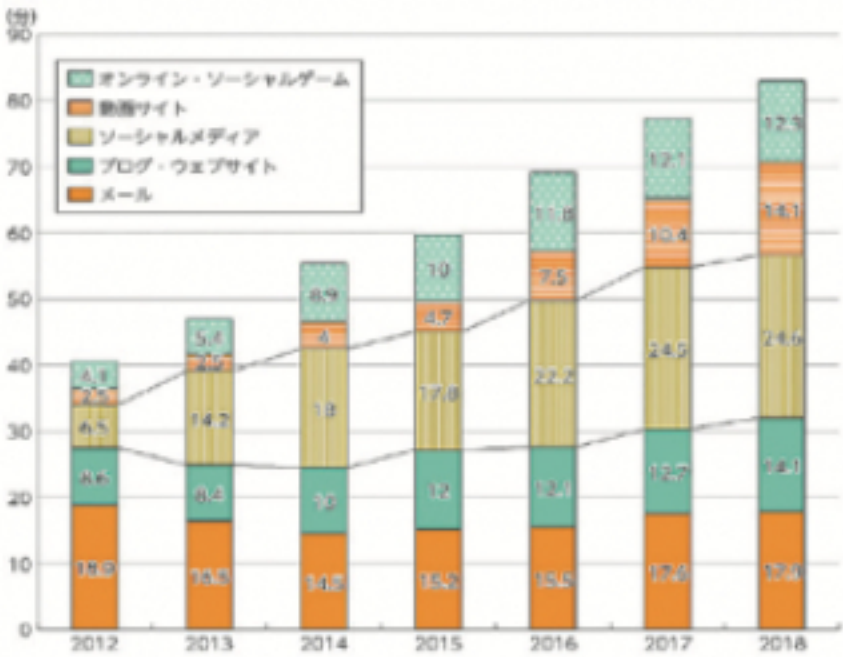
国の重点政策を示す「骨太の方針」の案が示されたが、デジタル化について「5年で一気呵成に進める」と記載があったことに少し驚いている。仕事柄国の政策関連の文章を読むことは多いが、このように強めの言葉を使うことはまれだと感じている。それだけ国としてもデジタル化を強力に進めるという覚悟の表れなのであろう。いよいよ今後5～10年でデジタル化が大きく進むことが確定的になってきた。

さて、大きくデジタル化が進む社会や地域の中で、ひとつ重要な力がある。それは「情報を読み解く力」である。1995年のWindows95発売を皮切りに2000年前半にかけて急速にインターネットは普及し、今では私たちの生活のなかで「あたりまえ」のこととして存在している。インターネットがもたらした変化や恩恵は多いが、なかでも私たちが受け取る「情報量と種類」は格段に増えている。なぜならこれまではテレビや新聞、雑誌など、一部の機関しか「情報の提供者」になり得なかった時代から、個人がスマートフォンだけで世界へ発信できる時代になってきたためである。

「情報量と種類」が増えたことで、私たちは知りたいと思う情報を日常的に取得ができる。さらに言えば、前述機関は利害関係者の都合で情報として発信できない、また、操作することもあるが、個人の発信は「加工されていない情報」であることが多く、私たちが知りたい情報として合致することも多い。適切な情報が得られるかどうかで人生の豊かさが大きく変わることは、特に議論の余地はないと思う。なんとも素晴らしい時代である。

一方、私たちが考えなければならないのは「情報の信びょう性や背景を読む、そして選択する」ことだ。ある調査資料によると、私たちが受け取る情報は1996年から2006年にかけて530倍になっているとのことである。調査結果から15年が経過しているため、現在はそれ以上の情報量であると考えると、私たちは「情報過多の時代」に生きていると言える。この情報量をすべて受け取っていたら処理はできないし、そもそも真に必要な情報を見落とすことも出てくる。さらに、個人の発信は「加工されていない情報」であることが多い、と記載したが、そこに個人の主義主張や思惑が入っていないとも言い切れない。私たちはただ情報を受けるのではなく「情報を読み解く力」を備え、信びょう性や背景を読み解き、選択することを日常とする時代になってきたのである。

デジタル化が大きく進むなかで、私たちが受け取る情報量はさらに大きく膨れ上がっていく。そんな情報過多の時代だからこそ、「情報を読み解く力」を備えることはもちろんのこと、他人の情報に振り回されず、自分を持って生きていきたいものである。



モバイルでのインターネット平均利用時間（日）
＝総務省「令和2年版情報通信白書」より

【一般社団法人トナリノ】
SAVE TAKATA（セーブタカタ）が前身組織。「地域の相棒」を合言葉に、広報物制作、商品開発販売、事務局広報代行などのサービスを、分野や地域を超えて提供。ICT支援員3人が所属、デジタル人材の育成にも注力している。事務所は高田大隅のたまご村内のコワーキングスペース「ヤドカリ」。電話番号は47・3287。

執筆者
トナリノ代表理事
佐々木信秋